新百合ヶ丘の活性化に専大生のパワー集結

きららっと kirara@アートしんゆり2008

フラッグコンテスト、フードフェスティバル、
巨大モザイクアート、コンサート企画に

キャリアデザインセンターの課題解決型インターンシップで経済学部の徳田賢二ゼミ生、ネットワーク情報学部の吉田享子／飯塚佳代プロジェクトのメンバー、商学部の石川和男ゼミ生が「しんゆり・芸術のまちづくり」フォーラムの活動に参加。イルミネーションイベント「kirara@アートしんゆり2008」（２月14日まで）を中心にその成果を発信している。このページでは学生たちの奮闘を紹介しよう。

経済・徳田ゼミ

フラッグコンテスト

地域を愛する方々との出会いが財産

スケジュール管理 大切さを学ぶ 広報班

フラッグコンテストは、新百合ヶ丘駅近くの街灯に「バナーフラッグ」として掲出されている。11月22日のイルミネーション点灯式で行われた表彰式では、ゼミ代表の大野明子さんらが司会・進行を担当した。中川さんは、「ただ募集するのではインパクトがないので、『フラッグ』として残すことで『芸術のまち』の認知度を上げようと考えました。応募数が少なかったことは募集期間の設定、情宣方法に甘さがあったと反省していますが、地域経済を研究する徳田ゼミとしては、地域を愛する多くの方々との出会いが最大の財産となりました」と振り返った。

▶ 表彰式も学生たちが進行

▲ 掲出されているバナーフラッグ

スケジュール管理を学ぶ広報班の三澤孝太郎さんら広報班9人は地域誌への記事の投げ込みやイルミネーションイベントのパンフレット作成など、イベント全体の広報を担当した。「徳田ゼミだけでなくトータルの進捗状況を管理しながら広報のタイミングを考え、実施するなかでスケジュール管理の大切さや文字で伝える難しさを実感しました」。

同フォーラムのホームページに専大生の活動が紹介されている。

笑顔をつくろう

8100枚の写真で巨大モザイクアート

しんゆりフードフェス

期間限定オリジナルスイーツ誕生

昨年、PR活動にかかわった先輩のアイデアを引き継ぎ、オリジナルスイーツを期間限定で販売しようと企画したのは加藤梓さんたち12人。和菓子店、ケーキショップなど4店舗にお菓子のデザイン画を持ち込んだ。各店は学生の提案を生かしながら、「しんゆり」らしさを表現したスイーツを期間限定で販売し、好評を博している（一部商品は販売終了）。加藤さんは「商品が店頭に並んだときは涙が出るほどうれしかったです。プレゼンや交渉を経験するなかで、人前で話すことの苦手意識が少なくなりました。なにより『ひと』と接することが大好きな自分に気づきました」と自身の変化を話す。

活動の〝核〟を忘れず 若い世代に認知を

徳田ゼミ全体の活動を大野さんは「企画を行動に移すまで、さまざまな問題が出てきました。『やりたいこと』と『やれること』と『やりたいこと』のすり合わせが難しく、悩むこともありましたが、その都度、活動の『核』となるものを見つめ直して解決してきました。タペストリーを見上げる人々の表情や、フードフェスのデザートの評判などを聞き、考えたことが形となって受け入れられ、ひとつの『芸術』として『しんゆり』に形づいたことを実感できました。活動していくなかで、私たちと同世代に『芸術のまち』という認識が低いと感じたので、専大全体で学部やサークルが連携してアピールしていくことで、芸術にかかわる施設や環境が街全体に整っている『しんゆり』の魅力の認知度がさらに上がるのではないかと思います。学生企画の実現に向け、貴重な時間を割いて協力してくださったフォーラムの方々に感謝しています」と話している。

ネット情報　吉田・飯塚プロジェクト

新百合ヶ丘探検マップ

ネットワーク情報学部の吉田享子・飯塚佳代プロジェクト24人は、巨大な「モザイクアート」＝写真＝でkirara@アートしんゆり」のポスターを作成した。代表の福原和貴さんらは、2007年に情報戦略コースの総合演習で新百合ヶ丘の意識調査を行い、分析。「芸術のまち」としての認知度が低いことがわかり、IT（情報技術）を活用して「人を集め、知名度を上げる」企画を考えた。

「モザイクアート」は、サティ・ビブレ新百合ヶ丘店の壁面（5㍍×4㍍）や、駅周辺10カ所のPRボードに掲載されている。学生たちは新百合ヶ丘周辺のほか、Jリーグ川崎フロンターレに協力を依頼し、試合会場で撮影させてもらうなどして、写真計約20000枚を集め、その中から8100枚を選んだ。ウェブ上で検索できるように、写真1枚ずつに検索ワードを持たせHTMLファイルを生成するシステムを開発した。リーダーの大森達也さんは「技術的な課題だけでなく、写真は個人を特定できないものを選別するなど、さまざまな課題を協力しながら解決してきました。フォーラムの方からも高い評価をいただきました。調査や準備に時間がかかり、スケジュール管理が心配でしたが、きちんとした準備があってこそ、その後の作業が楽になることを実感しました」と振り返った。

とびだせ！　しんゆり・芸術のまちづくり」フォーラムへ提出できるプロトタイプを完成させた。「当初、ゲーム制作に甘い考えを抱いていました。実際のゲーム制作には、使用するツールの相性、データサイズ、バージョン、データ形式など、さまざまな要素が複雑に絡み合っており、問題が尽きることがありませんでした。こうした問題を一つひとつ解決することによって、情報社会に必要不可欠な課題解決能力を身につけることができました」と話している。

12月13日に開かれた「プロジェクト発表会」（6面参照）では、ゲームが子供たちに大好評。入場者投票で第1位の評価を得た。代表の福原さんは「企業で行っているのと同じように『プロジェクト』を経験し、それが実際に街の活性化に活用されるということは自信につながりました。学生でも社会貢献できることを教えてくれたこのインターンシップに感謝しています」と話している。

サウンド・オブ・イルミネーション

商・石川ゼミ生がプロデュース

▲ 石川ゼミの４人（左端が代表の木村さん）

▲ 見事な演奏を披露したＭＪＡブルーコーラル。２月１日には東京・港区の「赤坂Ｂｂ」でリサイタルを開催する。11時開演（20時終了予定）。チャージ料1000円（１ドリンク付）

12月23日、新百合ヶ丘駅近くの住宅展示場で開かれたミニコンサートは本学の公認ジャズサークルＭＪＡブルーコーラルなどが出演し、クリスマス気分を盛り上げた。企画・運営したのは木村幸太郎さん（商3）ら石川和男ゼミ生4人。木村さんは「大学生などが出演するイベントで、若い世代を呼び込み、『しんゆり＝芸術』を知ってもらおうと企画しました。イベントの流れを考えたり、司会のコメントをつくったりするのは初めてで戸惑うことも多かったですが、来場してくれた皆さんの楽しそうな様子に、達成感を感じました。リーダーとしては、広い視野に立つことと綿密な計画の大切さを学ぶことができました」と話してくれた。